

自己主張むしろ安心な米



1956年生まれ。専門は神学、米国研究。国際基督教大副学長をへて現職。著書に「反知性主義」「不寛容論」。

もりもと
森本 あんりさん 東京女子大学学長

コロナ禍のアメリカでは、マスクをする人、しない人がはっきりと分かれました。アメリカ人は自由を尊ぶイメージがありますが、実はそこには、歴史的・政治的・宗教的な根深い背景があります。

そもそも英国政府に見切りをつけ、自力で開拓したのが建国以来の歴史で、基本的に連邦政府という権威への反発があるのです。特に南部には南北戦争で連邦政府に敗れた記憶も残り、政府は「悪」という考え方が強い。

その連邦政府から「マスクをして」と言われても、南部の人々は反発しがちです。信心深いキリスト教徒で、トランプ前大統領を支持した福音派が多い。白人で、人種隔離に賛成、銃規制に反対、人工妊娠中絶は反対。進化論を否定するもの、ワクチンを拒否するの反発から来ているのです。

「マスクをしない」のは、そんな主義主張の表明でもあります。田舎に暮らし、伝統的な家庭を守る保守の人間だ

「マスクをしない」のは、そんな主義主張の表明でもあります。田舎に暮らし、伝統的な家庭を守る保守の人間だ

です。「マスクをするのは意気地なしだ」というトランプ発言は、彼らの宗教観です。さらに言えば、アメリカ人は自らの主張を示した方が安心なのです。日本では自分を隠した方が安心で、マスクもその手段の一つかもしれません。いきなり銃で撃たれるかもしれない社会で、あえて「私はこういう人間だ」と示すことで、他者との距離が測れるし、交渉もできる。立場がいまいだと、相手から「敵か味方か」と不審に思われ、かえって危なかったりする。

アメリカで今、マスクをする人は減っていると思います。今回のマスクを巡る分断を振り返ると、日本社会とは成り立ちからして違うことがわかります。アメリカ人の目からみれば、どうして日本人はこんな素直に政府に従って、個人の権利を売り渡し、いつまでもマスクをつけているんだろう、と不思議に思うかもしれませんね。

（聞き手・小村田義之）